



富士通サービスビジネスへの取り組み

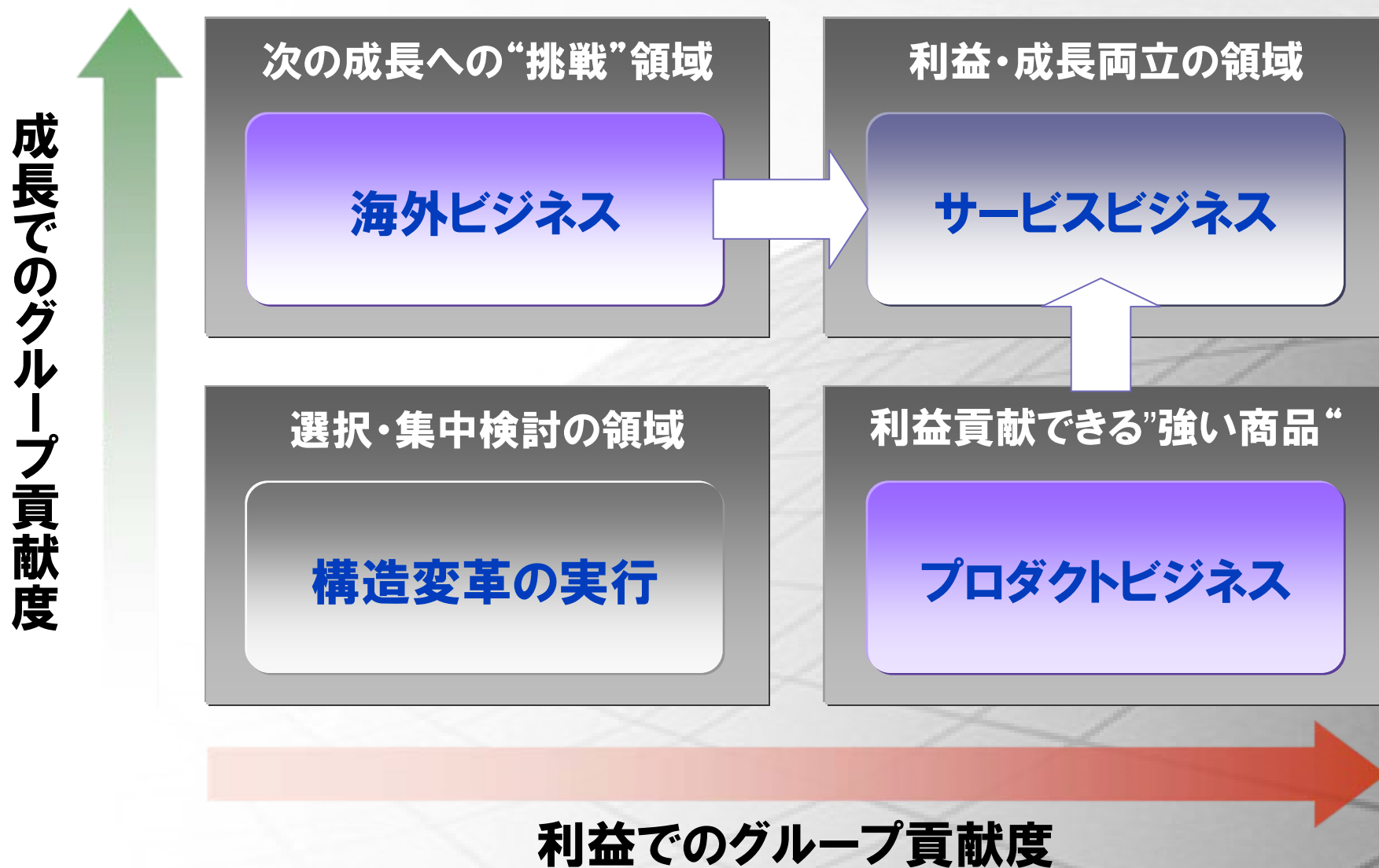
Approach to Service Business Development

FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE



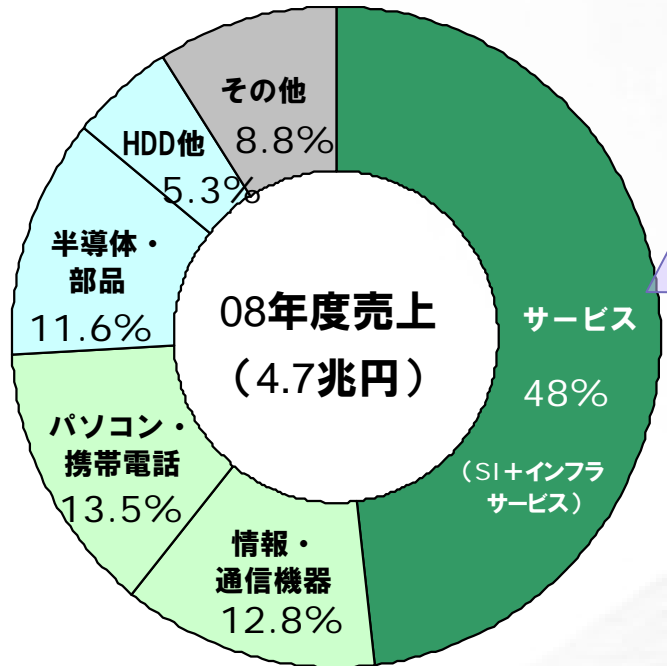
利益と成長への貢献が、事業リソース投入の判断軸



サービスビジネス事業状況



売上の約半数をサービスが占有



サービス事業(SI+インフラサービス) 2.4兆円

インフラサービス事業 1.2兆円

国内アウトソーシング事業(連結) 6,000億円

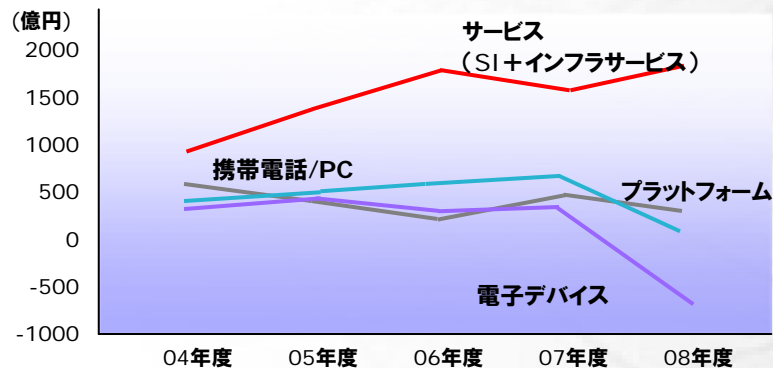
ーデータセンターサービス事業 1,900億円

(ホスティング・SaaS/ASP・クラウドサービスなど)

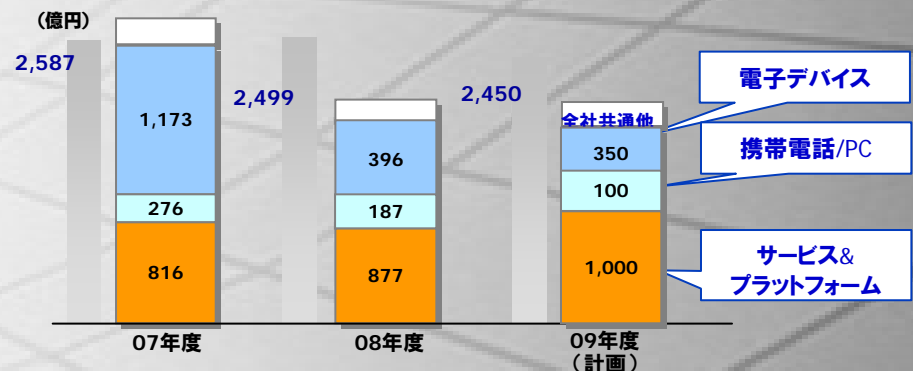
ーネットワークサービス事業(FENICS)

ーオンサイトサービス事業(LCM/サポートデスク)

サービス事業が営業利益を牽引



設備投資はサービスビジネスヘシフト



データセンタービジネス状況と特性 (1)

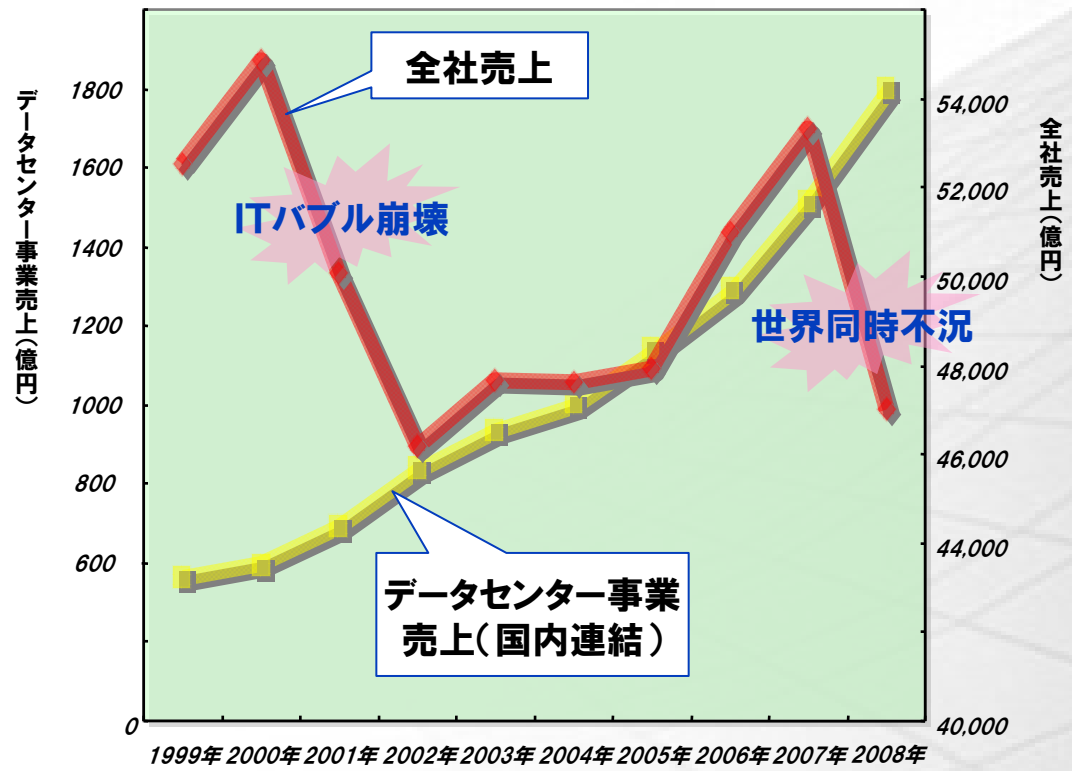


◇ 景気変動に強い事業モデル

- スtockベースの長期成長型事業
- 不景気にこそ要求されるコストダウン志向

◇ 新技術の実装が競争力

- 自動化・無人化・省力化を徹底
(稼働台数15倍:対応要員3倍)



	1995	2000	2008	13年間での拡大状況
稼働台数	1,600台	12,000台	24,000台	15倍
対応要員	400名	700名	1,200名	3倍



データセンタービジネス状況と特性 (2)

◇継続的事業運営が信頼の源泉 ◇長期のパートナーシップが重要

- センターファシリティ: 14年間無事故・無停止
- 3,000社のデータセンター稼働のお客様

- 継続価値を要求される
- 信頼関係をベースに次のビジネスへ拡大

【ご利用いただいている主なお客様】

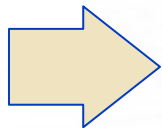
- ◆流通 : 高島屋様、ワタミ様、ミツカン様、グローウエルHD様
- ◆製造 : 三井化学様、日本製紙様、ピップフジモト様
- ◆金融 : 富士火災海上様、JNB様、明治安田生命様
- ◆情報 : 帝国データバンク様、サンリオ様
- ◆公共 : 東京都福利厚生事業団様、神奈川県国民保険様

プロダクト型 (狩猟型ビジネス)

- ・有形商品(目に見える)
- ・ベンダー側の決めた仕様
- ・ベンダーには結果を要求
- ・獲得連続性が成長モデル

サービス型 (農工型ビジネス)

- ・無形商品・できて当たり前
- ・結果と過程両方大切
- ・お客様との長期間の共同作業
- ・種を蒔き、大きく育てる成長モデル



5年連続国内No. 1のシェア

「出典: IDC Japan, 09年8月(J9300104)」



お客様ニーズ変化への対応

ITの重要度増大
経営を効率化するIT
から
経営を支えるITへ



新たなIT利活用の創出

- クラウドサービス
- SaaS、IaaSサービス

グローバル化の進展
グローバル視点での
ガバナンス、最適化
の推進



グローバルDCの拡大

- 中国(本日プロジェクト発足)
- 北米、豪州

環境意識の高まり
国内外での規制強化
とCSRとしての
取り組み活発化



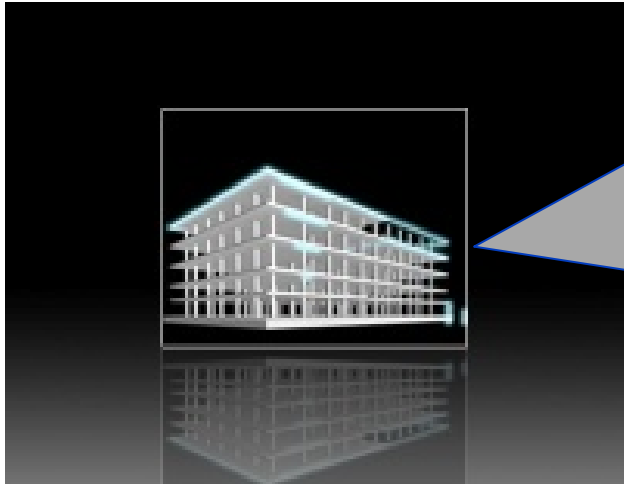
環境配慮型サービス基盤

多様化／複雑化するお客様ニーズに対応すべく、最先端の「技術」と豊かな「経験」を結集し、データセンターを新設します！

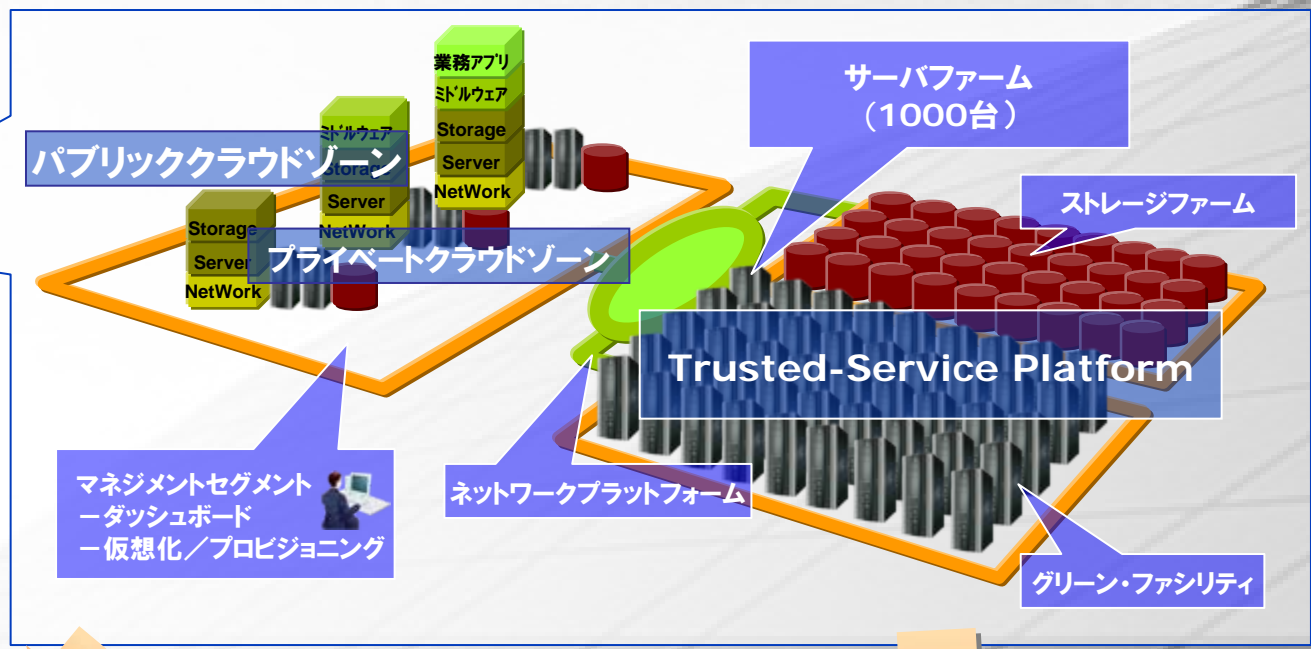


Trustedなサービスを支える次世代データセンター

最先端IT技術を結集したクラウドビジネスの発信地として、次世代基盤の役割を担います。



館林新棟5階マシンエリアに実装



【高信頼・高品質なサービス提供】

SaaS、IaaS
(2008年10月)

クラウドサービス
(2009年4月)

【クラウドのノウハウを活用】

**企業内クラウド
支援**
(2009年10月)



館林システムセンターご紹介

—ファシリティとソリューション—

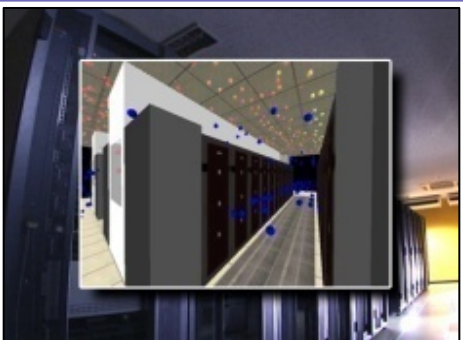
FUJITSU TATEBAYASHI SYSTEM CENTER

FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE



環境に優しい環境配慮型データセンター



最新鋭の高集積・高セキュリティ設備群



圧倒的な競争力を有するソリューション



環境に優しい環境配慮型データセンター

従来センター比40%のファシリティ省電力化により、ITシステムの環境負荷を軽減します。

1. 見える化：省エネ運転マネジメントシステム

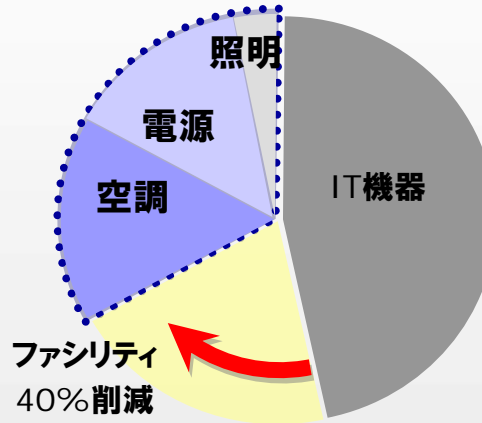
- 特高受電設備からラック単位の電力モニタリング
- 省スペースインテリジェント分電盤
- サーバラックごとの温度・風量モニタリング
- 環境監視センサーネットワーク 等

2. 最適なエネルギー活用

- 増設時の電源割当最適化
- 高電圧配電
- 人感センサーによる照明制御
- 高効率な電気設備の導入 等

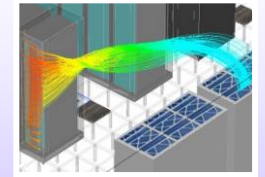


【高効率UPS】



3. 最適な空調

- 熱流体シミュレーション
- 局所空調システム
- フリークーリング
- 外気冷房
- 免震ピット冷気による冷房
- 大温度差冷水によるポンプ動力削減
- 高効率ターボ冷凍機 等



4. クリーンエネルギー

- 太陽光発電 等
(垂直設置+水平設置)



【太陽光発電】

5. 建屋の工夫

- 断熱材
- 溶岩パネル
- 無窓化 等



【溶岩パネル】

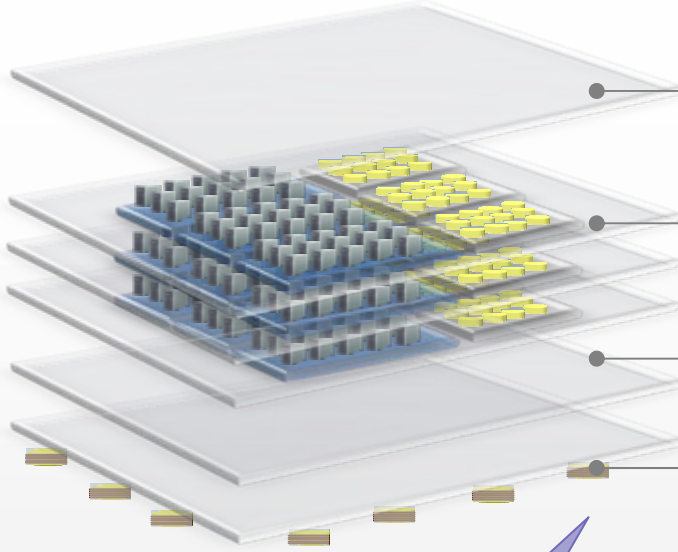
6. ITプラットフォーム

- 専用サーバラック
- 光仮想イーサネット装置
- サービス指向プラットフォーム 等



最新鋭の高集積・高セキュリティ設備群

国内最高水準のファシリティ技術を実装、高度な可用性・堅牢性・対災性を実現します。



屋上 : 太陽光発電/冷却塔

3~5階 : サーバルーム

1~2階 : 電源設備/冷熱源設備

地下 : 免震設備

最大ラック電力供給量20kvaを実現



床荷重: 1.2t/m²
最大定格20kVA/ラック
計11,400m²
計3,600ラック相当

セキュリティチェックポイントは最大7箇所

人位置管理



無死角監視・映像保存

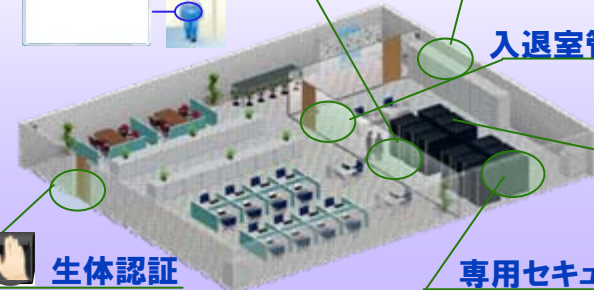
入退室管理・共連れ防止

ラック電気錠



生体認証

専用セキュリティエリア(個別)



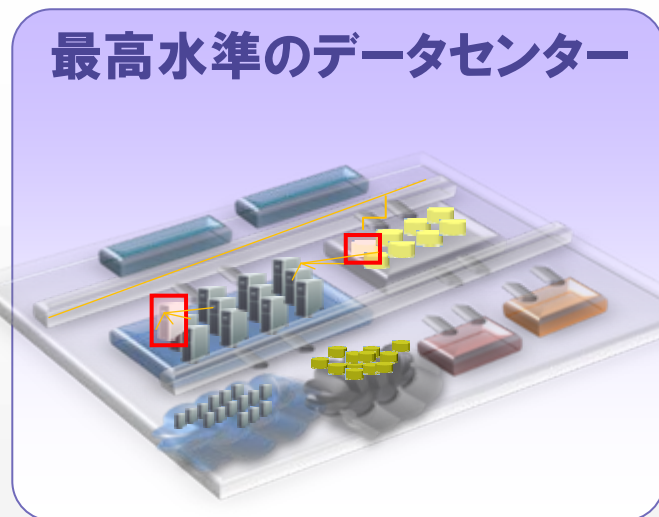


圧倒的な競争力を有するソリューション

富士通だからこそ、ファシリティ+運用サービスの両面でお客様のご期待にお応えします。

【お客様RFP例(ファシリティ)】

カテゴリ	RFPご要件例	館林センターのご回答
建屋構造	・ 免震構造 であること	◎
電源	・ 異なる変電所 より受電していること	◎
自家発電	・ 72時間無補給で連続運転 可能なこと	◎
備蓄燃料	・ 燃料業者3社と供給契約 を締結していること	◎
環境	・ クリーンエネルギー を活用していること	◎
セキュリティ	・ 入退履歴、監視カメラ映像を1年間保存 していること	◎



【お客様RFP例(運用)】

カテゴリ	RFPご要件例	館林センターのご回答
運用サービス	設置機器の 24時間365日有人運用 が可能であること	◎
	トラブル時のSE/CEが出動する体制 を文書化できること	◎
	不正アクセスを24時間365日監視 すること	◎
	SLA を締結可能なこと	◎
	マルチベンダーシステムを運用 可能であること	◎
	非定型作業の依頼 が可能であること	◎
	稼働状況やトラブル対応状況をレポート できること	◎



実績No.1の運用技術

- オペレーション体系標準化
- オペレータ運用学校
- 運用自動化ツール適用
(リスクチェック、CAD、ポータル等)

ご参考)ロケーションニーズに万全に対応(国内58センター)

富士通センター4拠点・FIPセンター12拠点を中心に全国展開。

館林システムセンター



所在地:群馬県館林市
サービス開始:1995年12月

明石システムセンター



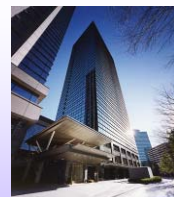
所在地:兵庫県明石市
サービス開始:1997年9月

東京第1システムセンター



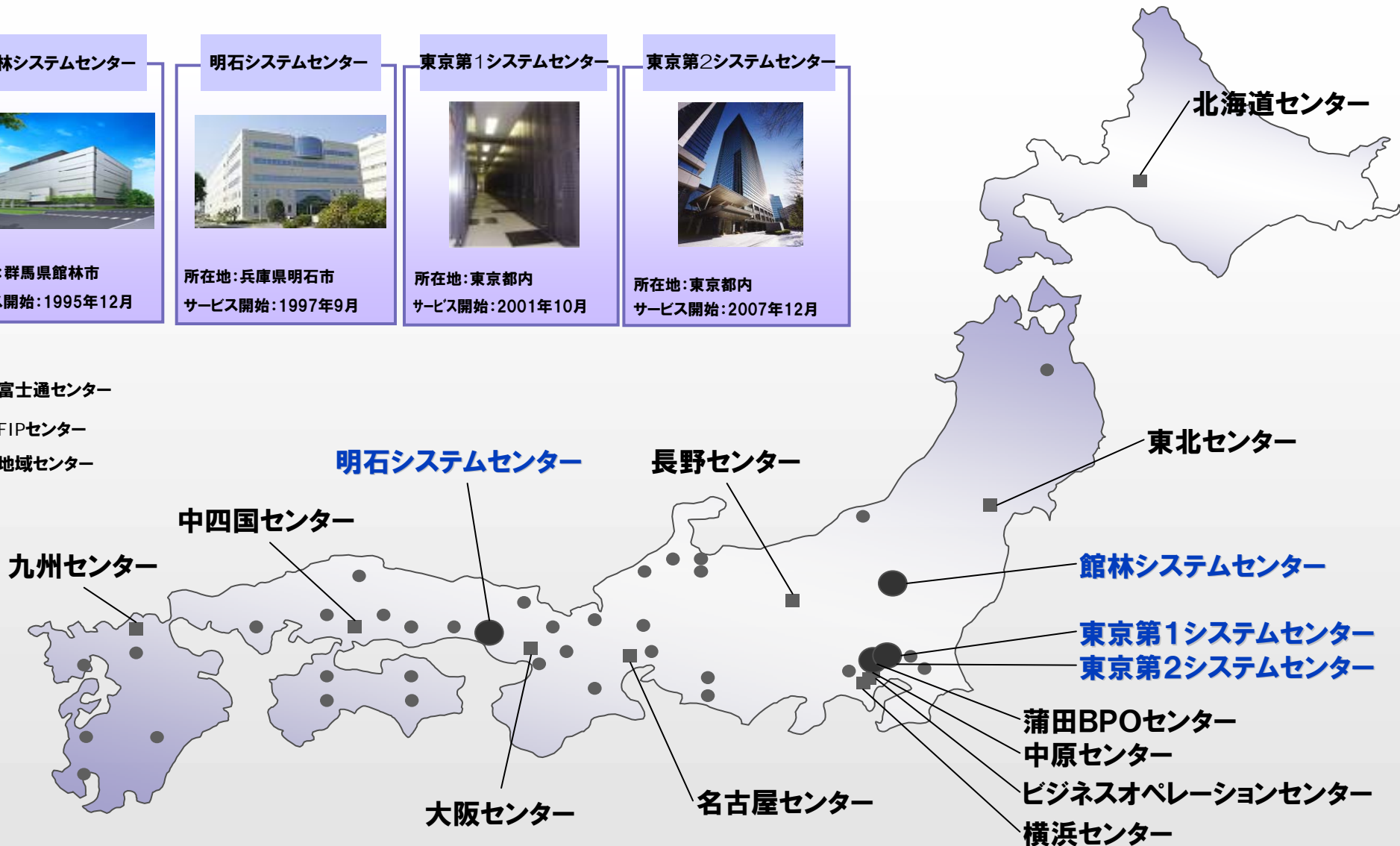
所在地:東京都内
サービス開始:2001年10月

東京第2システムセンター



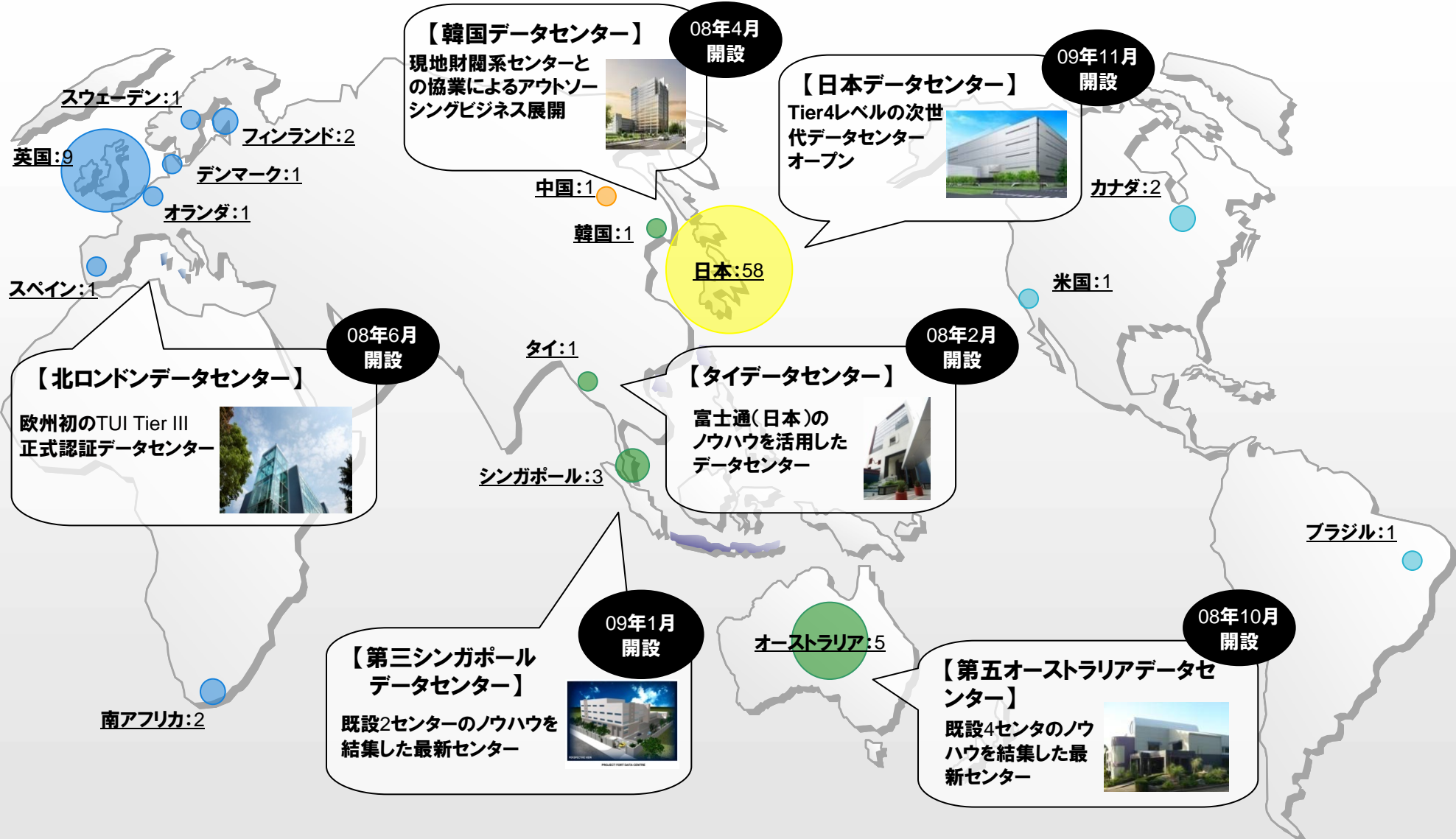
所在地:東京都内
サービス開始:2007年12月

- 富士通センター
- FIPセンター
- 地域センター



ご参考)グローバルレベルでデータセンター事業を展開

世界90拠点超に富士通センターを設置。08年以降6箇所を新設。



引き続き館林システムセンターをご見学下さい



THE POSSIBILITIES ARE INFINITE

免責事項

このプレゼンテーション資料、及びミーティングで配布されたその他の資料や情報、及び質疑応答で話した内容には、現時点の経営予測や仮説に基づく、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述において明示または黙示されていることは、既知または未知の

リスクや不確実な要因により、実際の結果・業績または事象と異なることがあります。

実際の結果・業績または事象に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます(但しここに記載したものはあくまで例であり、これらに限られるものではありません)

- 富士通の提供するサービスまたは製品にとって主要な地域(アメリカ合衆国、EU諸国、日本、その他アジア諸国など)のマクロ経済環境や市況動向。中でも当社顧客のIT支出に影響を及ぼすような経済環境要因。
- 急速な技術変革や顧客需要の変動。及び富士通が参入しているIT市場、通信市場、電子デバイス市場での激しい価格競争。
- 他社との戦略的提携や、合理的条件下での他社との取引を通じて、富士通が特定のビジネスから撤退し、関連資産を処分する可能性。およびこのような撤退・処分から発生する損失の影響。
- 特定の知的財産権の利用に関する不確実性。特定の知的財産権の防御に関する不確実性。
- 富士通の戦略的提携企業の業績に関する不確実性。
- 富士通の保有する国内外企業の株式の価格下落が、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表に与える影響。およびこの保有株式の株価下落により発生した富士通の年金資産の評価減とこれを補うために追加拠出される費用の発生による影響
- 顧客企業の業績不振、資金ショート、支払不能、倒産などに起因する売掛債権の回収遅延や回収不能によって、当社が被る損害の影響
- 富士通が売上高をあげている主な国の通貨、および富士通が資産や負債を計上している主な国の通貨と日本円との為替レートの変動により発生する為替差損益の影響(特に、日本円と、イギリスポンド、アメリカドルとの間の為替差損益の影響)